



2015 WORLD SUPERBIKE CHAMPION

2015年スーパーバイク世界選手権 シリーズチャンピオン獲得

ジョナサン・レイ (Kawasaki Racing Team) スペシャルインタビュー

2015年、Kawasaki Racing Teamはスーパーバイク世界選手権 (以下、SBK) において念願のシリーズチャンピオンを勝ち取った。新たに加わったライダー、ジョナサン・レイがNinja ZX-10Rを駆り、14勝という圧倒的な結果を残したのだ。



バイクとチーム。この完璧なバランスがシリーズチャンピオンを実現させた。

JONATHAN REA

「時速300キロで走る世界が自分の舞台なわけですが、バイクとロードレーサーには通じる部分もあるんです。例えばロードレーサーの、体力を使わずにムダなく乗る」という感覚。このスタンスでバイクに乗ると、タイヤを消耗するような余計な動きをせず、安定したライディングができるようになるんです」。

「父は僕が5歳の頃から必ずチャンピオンになれると信じてくれました。KRTに入る時も喜んでくれたし、もちろん今回の優勝は父にとっても本当に嬉しい出来事。今でもオフの時は、トレーニングを兼ねて週に3日はモトクロスバイクに乗っています。でも、現在トレーニングの中心になっているのはロードレーサーでのサイクリング。1日に少なくとも50キロ以上は走っています」。

「Ninja ZX-10Rに初めて乗って感じたのは、とにかく安定しているということ。ラップタイムを詰めている時でも、まるでスローモーションのように安定していました。攻め込んでも、マシンは「まだまだいけるぞ」という感じで、もつと走りたいという気分になりましたね。ペースが優れていて弱点がなく、すべてのポイントでバランスが取れている素晴らしいマシンです。自分のライディングスタイルにぴったりなバイクにやっと出会えた感覚です」。

最後に2016年の目標をたずねると、「今年は早めに調整をしてきたので、昨年より1キロシェイプアップするなど、すでにベストコンディションの状態に仕上がっています。今シーズンは、ディフェンディングチャンピオンとして前シーズンよりも激しい戦いになるとは思いますが、走ることを楽しみなから、チームワークで優勝を狙っていききたいと思います」。



ジョナサン・レイ
イギリス・北アイルランド出身のモーターサイクル・ロードレースライダー。スーパーバイク世界選手権 (SBK) 2015年チャンピオン。SBK初参戦は、2008年最終戦 (第14戦) のポルティマオ大会 (4位・15位)。2009年第8戦サンマリノ (ミサノ・イタリア) 大会のレース2で初優勝。2012年の鈴鹿8時間耐久ロードレースにて優勝。



シャープなコーナリングで、レースをリードするジョナサン・レイ。

Contents
02 スペシャル・インタビュー (IN FOCUS) ジョナサン・レイ (Kawasaki Racing Team ライダー)
04 Special Feature 北の大地へ 北海道新幹線と川崎重工
09 時代を切り拓く【Epoch Maker】 エネルギーの明日をつくる 低温貯槽タンク
10 【TechnoBox】 オフロード多目的四輪車 MULE PRO-FXT
12 【川に見る・日本の四季】 山形から「春」を追う
14 HOT TOPICS
【表紙】 オフロードを疾走するMULE PRO-FXT
→詳しくは「TechnoBox」(10~11ページ)をご覧ください